

## 第1回あゆ王国高知振興ビジョン推進協議会 議事概要

■開催日時：令和4年11月16日（水）13:30～16:00

■開催場所：高知商工会館 光の間

■出席委員：黒笹会長、岡村委員、藤田委員、岡林委員、藤本委員、西脇委員、林委員、西内委員、林田委員、堀岡委員

■議事：

(1) 取組の進捗状況について（資料1に基づき県、市町村から説明）

○県・市町村・漁協等の取組に対する委員からの主な意見

- ・四万十町のあゆ小屋の取組について、駅で実施する場合、列車の停車時間も短かく、難しいとは考えられるが、観光列車と事前に打合わせをして、あゆの塩焼きの予約を車内で受け付け、駅に着いた時に乗客が熱々のあゆの塩焼きをほおぼって次の駅に行くというのは、ニュース的にもかなり面白いものになると思う。（黒笹会長）

(2) 進捗管理表に追加する新たな取組について（資料2に基づき県、四万十市から説明）

○県・市町村・漁協等の取組に対する委員からの主な意見

- ・四万十市の食味会というのは、旅館等に向けてのプロモーションのようなものか。（黒笹会長）

→ 今回の食味会は、四万十川の河川環境が悪くなっているという話が出ていることから、同じ四万十川でも獲れた場所によって（上流、下流、支流などで）味が違うことを体感してもらう目的で、国、幡多土木事務所、四万十市、四国電力等を対象に実施した。（堀岡委員）

→ 味の違いを確かめてもらった結果、参加した方々に何か行動に移してもらうようにしないと、お楽しみ会だけになってしまうと思う。水質を改善して欲しいと言ったメッセージを出すこと、新聞に出していただく等、計画的に動いた方がいいのではないかと考える。（黒笹会長）

- ・能津地区の取組は火振り漁を見学させて、参加したお客さんに獲れたあゆを食べさせるイメージか、または火振り漁そのものは観光メニューになっていないのか。（黒笹会長）

→ 火振り漁そのものは観光メニューになっておらず、原料を火振り漁で確保していると聞いている。（青野チーフ）

→ 日高村が仁淀川の流域であることに、意外と気が付いていない人が多い。また、屋形船が観光の拠点であるため、あゆを使うというのはとてもいいことだと思う。（黒笹会長）

(3) 作業部会の取組状況について（資料3、4、5に基づき事務局から説明）

○流通販売部会の取組状況等に対する委員からの主な意見

- ・和良川漁協では、冷凍あゆの保管時に酸化を抑えることに加え、品質向上を目的に冷凍庫にパルス発生装置を設置している。（西内委員）

・流通の試験については、すでにあゆを出荷している事業者の方がこれまでの取組の中で、情報を蓄積しているはずなので、共有した上で次の取組に進んではどうか。（黒笹会長）

- ・また、今後、高知県であゆをカツオと並んで食の観光の柱にしようとする、周年食べられるか、鮮度が良好な内にしっかりと冷凍保存できるかの流通システムの構築が課題になると予想され、あゆ振興の一番基本的かつ重要な部分になると考える。（黒笹会長）

- ・今後は、生鮮又は冷凍による周年出荷のいずれかの方法が主になると考えられるので、部会で具体的な議論をこれから進めていければと考える。(黒笹会長)

○資源・環境保全部会の取組状況等に対する委員からの主な意見

- ・あゆ資源の減耗を防ぐ対策は川、川の上・下流、年によっても異なることから、科学的な情報を一元的に集めて検討材料とすることが必要。併せて、川をどう守るかについては、川の実情を一番知っている漁協も含めて、川に関わる人を増やすことが大きな課題になると考える。ただ、すぐに出来ることではないため、諦めずにやっていくテーマになると考える。(藤田委員)
- ・河川環境保全のためには、河川に関係する人達を増やす必要があるのではないか。内水面漁協の組合員を増やす取組が必要と考える。県では内水面漁協の組合員の減少をどのように捉えていて、組合員の増加に対する政策を行っているのか。(黒笹会長)
  - 内水面漁協は、組合員が減少することで組合費、賦課金等の収入が減少しており、負のスパイラルに入っている状況にあると考える。ただ、現状では、組合員を直接増加させるような取組は行っておらず、間接的な支援に留まっている。(西山副部長)
  - 四万十川の場合は過去10年くらいは組合員数が減少傾向であったが、ここ2～3年は移住された方から組合員になりたいという申し出があり、横ばいになっている。ただ、地域と良好な関係を作ってもらわないとトラブルが発生するので、地域に根ざしたルール作りが課題となっている。(堀岡委員)
  - 各漁協の努力に任せるだけではなく、組合員などを増加させるプロジェクトを開催し、各漁協でできることを考えてもらう仕掛けが出来ないかと考える。この件に関しては、どの部会が扱えばいいのか事務局の方で検討し、議論をする機会を作って頂ければと考える。(黒笹会長)

(4) 視察の報告について(資料6に基づき事務局から説明)

○視察の報告に対する委員からの主な意見

- ・岐阜県の長良川流域は鮎と一緒に生きていくという志がすでにあると感じる。また、高知県が参考にできるものの洗い出しが必要である。(黒笹会長)
- ・あゆの供給拡大については、システムを作ってみて試行錯誤していくしかないと考えられる。(藤本委員)